

挑む!

落語家

桂 ちょうばさん(39)

明るく楽しく
自分の味に

上方落語界の新たなスターを発掘しようとして、3年前に始まった若手噺家グランプリ。「最後の挑戦」と決めて臨んだ6月の第4回大会で優勝し、出場38人の頂点に立った。落語家になって17年。若手から中堅への移行期でつかんだ栄冠に、「次のステージに向けて弾みになります」と喜ぶ。

落語との出会いは高校1年の時。友人にテレビの演芸番組のスタジオ観覧に誘われた。桂さこばさん(70)と笑福亭鶴瓶さん(66)が即興で演じる噺に腹

を抱えて笑った。「こんなすごい芸能があったのか」と衝撃を受けた。落語会に通い始め、進学した阪南大学では「大阪の観光と落語」をテーマに卒論を書いた。

卒業後の2001年、さこばさんに入門。「全てはネタが教えてくれる。1本でも多く、いろんな噺を覚えなさい」と教えられた。「40歳までに100本」の目標を掲げ、一門以外の師匠方からも稽古をつけてもらった。

今月末にその40歳になる。目標にはやや届かなかったが、古典落語を自分なりにアレンジしたり、新作を作ったり。「基礎工事を終え、ぼちぼち僕の色を出してもいい時期にきたのかな」心がけているのは、明るくて分かりやすい落語。高校生の頃の自分のような初心者も楽しんでほしいから。

京都市出身。グランプリ優勝を記念した独演会を23日午後2時から、大阪市中央区の本能楽堂で開く。米朝事務所
(06・6365・8281)。

文・写真 深松真司

記者から

大学時代、デビュー前のコブクロの横で路上ライブをしていたとか。よく通る、いい声も武器。